

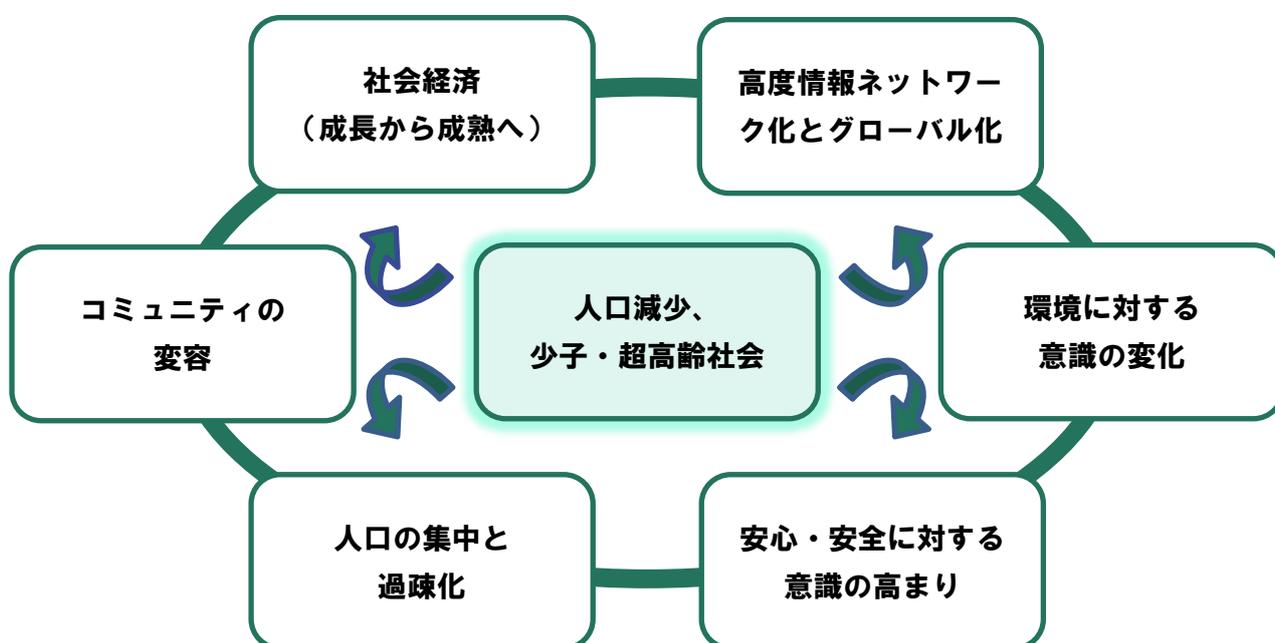
「(仮称)次期桐生市総合計画」策定に向けた基礎的状況把握

1 桐生市を取り巻く時代の潮流（トレンド）

桐生市を取り巻く時代の潮流について、7つの枠組みで整理しています。

これらの7つの枠組みは、それぞれが様々な局面において相互に影響しあいながら、社会状況の中で大きなトレンドを形成しています。

また、これらは並列的な影響関係ではなく、多くの局面において“人口減少、少子・超高齢社会”という人口問題（人口の規模及び構造の変化）に係る時代の潮流の変化に大きな影響を受けながら、他の6つの枠組みが変容・変化していくケースが多いと考えられます。



〔人口減少、少子・超高齢社会〕

『人口減少、少子・超高齢社会』は、個人の価値観の変化やライフスタイルの多様化に伴う少産化・晩婚化・非婚化の拡大によるところが大きく、今後も長期的な社会保障制度の逼迫を始め、労働力の減少や消費市場の縮小などが想定されます。

- ◆少産化・晩婚化・非婚化 ⇒ 出生率の低下
- ◆人口構造の高齢化の進展（団塊の世代等の高齢化）
- ◆人口減少社会
- ◆社会保障制度の逼迫（医療・介護・福祉コストの増大）
- ◆労働力の減少、消費市場の縮小

[社会経済（成長から成熟へ）]

『社会経済』は、工業生産品の消費マーケットとしての人口の増加を前提とした大量消費社会から、人口減少（特に消費購買が期待される生産年齢人口の減少）を背景に、“量から質へ”の転換を余儀なくされた経済構造そのものの変化として捉えることができます。

働き方の多様化のひとつの姿としての非正規雇用の拡大は、人生設計の不透明性を増し、結婚できない若者の増加の他、貧困問題を含めた経済的格差の拡大として問題となっています。

- ◆生産拠点の海外移転（安い労働力市場を求めて）
- ◆国内産業の空洞化
- ◆海外投機・土地投機によるバブル経済とその破綻
- ◆リーマンショック（ファンドバブルの終焉）
- ◆社会・経済に対する不安感の拡大、非正規雇用の拡大
- ◆アベノミクス（金融緩和政策）

[高度情報ネットワーク化とグローバル化]

『高度情報ネットワーク化とグローバル化』は、人口構造・規模の変化に端を発する上記の社会経済の変容の中で、重厚長大型の産業・製品から軽薄短小型へとシフトした結果として、情報通信技術の進展を経ながら個人レベルでの情報端末（モバイル）の所有・利用が普及してきたものとして捉えることができます。

こうした技術の進歩は地域や国の枠組みを超えて、だれもが容易につながることができるといった新たな関係性や、経済活動の可能性を広げた一方で、情報の管理やセキュリティといった問題もはらんでいます。

- ◆情報通信技術（ICT）の飛躍的進歩と普及
- ◆市場経済の地球規模化（グローバル化）
- ◆情報関連産業の成長
- ◆情報セキュリティ、個人情報問題
- ◆バーチャルコミュニケーションの普及
- ◆情報及び情報ツールの・モバイル化・個人化
- ◆地球規模での分業化

[環境に対する意識の変化]

『環境に対する意識の変化』は、地球規模での人口増加（特に発展途上国・新興国）を背景に、食糧（生産能力）やエネルギー（石油などの化石燃料）などの限りある地球資源の不足・枯渇を危惧する意識の高まりとして捉えることができます。

併せて、『高度情報ネットワーク化とグローバル化』の進展によって、環境問題を地球規模で考えることが一般化されつつあり、2015年に国連で採択された持続可能な開発目標（SDGs）においてもクリーンなエネルギーの活用、気候変動への対策や、海・森の豊かさを守るための指標等が設定され、各国・各地域での推進が求められています。

- ◆地球温暖化を含め、地球レベルでの環境破壊
- ◆生物多様性の減少
- ◆環境汚染（廃棄物の増加、化学物質等の蓄積による汚染）
- ◆水・食糧・エネルギー・資源等の不足（世界人口の増加、資源の偏在）
- ◆原子力発電に対する意識の変化

[安心・安全に対する意識の高まり]

『安心・安全に対する意識の高まり』は、直接的には人口減少等の影響を受けにくい枠組みですが、都市部では大規模災害発生後の帰宅難民対策が大きな課題となり、また、過疎化が進む山間部などでは地域における共助体制の低下等が問題となるなど、人口が集中する地域と過疎化する地域においては関心の持ち方や課題等が、異なる様相を呈しています。

とりわけ、近年多発・局地化する自然災害や、『高度情報ネットワーク化とグローバル化』に伴う犯罪の高度化などに対して、地域の状況に応じた対応策が求められます。

- ◆振り込め詐欺など、高齢者を狙った犯罪の多発
- ◆東日本大震災（津波、原子力災害）
- ◆津波や原子力災害の恐ろしさ
- ◆災害に対する危機意識の変化・高まり
- ◆食に対する安心・安全意識の高まり
- ◆農産品等の産地・生産者に対する関心の高まり（トレーサビリティ）

[人口の集中と過疎化]

『人口の集中と過疎化』は、『人口減少、少子・超高齢社会』のひとつの側面としてみることもできますが、人口減少は全国的な動向とはいえ、全国において画一的に進行しているわけではなく、そこには都市と地方との現象的格差が生じています。

首都圏をはじめ、巨大な市場（マーケット）としての都市に対する資本の投入・集中による都市としての魅力・利便性の向上、これに伴う都市部への人口集中が続いています。地方は都市に人口（特に若者）を奪われるとともに、若者の減少による結婚・出産数の低下により、ますます高齢化に拍車がかかることとなります。

一方で、若者や定年退職後の世代を中心に、自然志向等に基づく地方回帰の流れも芽生えており、『高度情報ネットワーク化とグローバル化』を活かしたテレワークの可能性の拡大も、こうした新たな流れを後押しすることが考えられます。

- ◆首都圏を中心とする人口集中（東京一極集中）
- ◆若者を中心に地方から都市部への転出
- ◆地方における人口減少と高齢化
- ◆都市周辺部における郊外の拡大
- ◆地方における限界集落（高齢化率 50%超）の発生
- ◆自然志向等に基づく地方回帰
- ◆人口集中の多極化（それぞれの地域における中心都市への集中）へ

[コミュニティの変容]

『コミュニティの変容』は、都市化に伴う価値観やライフスタイルの多様化などにより、核家族などの小家族へと変化してきたことの結果として、地域とのつながりが希薄化したことで、これまでのような地域社会における地縁に基づく地域コミュニティ（町会・自治会など）への参加者が減少しています。

一方で、『高度情報ネットワーク化とグローバル化』の中、地縁にとらわれない新たなつながりによるコミュニティ（ソーシャル・ネットワークなど）が多く生まれています。

- ◆核家族化（大家族から小家族へ）
- ◆住まう地域への愛着・関係性の減少、地域住民とのふれあい・関わりの希薄化
- ◆地域らしさ（アイデンティティ）の喪失
- ◆地域コミュニティの機能低下、崩壊（地域における支え合い等の地域力の低下）
- ◆隣近所に対する無関心（小家族の孤立化、孤立死の増加、犯罪の増加）
- ◆地縁にとらわれないコミュニティの増加・拡大（ICT等の活用、NPO活動）
- ◆地域コミュニティの役割・重要性の再認識、地域共生社会
- ◆地域アイデンティティの重要性

2 国・県における主な関連計画等

(1) まち・ひと・しごと創生基本方針 2018(平成 30 年6月 15 日閣議決定)

内 容

～「各分野の施策の推進」について抜粋～

1. わくわく地方生活実現政策パッケージ

- (1) UIJ ターンによる起業・就業者創出
- (2) 女性・高齢者等の活躍による新規就業者の掘り起こし
- (3) 地方における外国人材の活用
- (4) 地域おこし協力隊の拡充
- (5) 子供の農山漁村体験の充実
- (6) 国民の関心を惹きつける効果的・戦略的な情報発信

2. 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする

- (1) 地域中核企業の発掘・成長支援を通じた地域未来投資の促進
- (2) 地域経済を支える事業創出環境の整備
- (3) 観光地域づくり・ブランディング等の推進
- (4) 近未来技術等の実装

3. 地方への新しいひとの流れをつくる

- (1) キラリと光る地方大学づくり等による地域における若者の修学・就業の促進
- (2) 地方への企業の本社機能移転の促進
- (3) 生涯活躍のまちの推進
- (4) 政府関係機関の地方移転

4. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- (1) 「地域働き方改革会議」における「働き方改革」の実践等
- (2) 出生数や出生率の向上に資する施策等の好事例の横展開

5. 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

- (1) まちづくりにおける地域連携の推進
- (2) エリアマネジメント等によるまちづくりの推進
- (3) コンパクト・プラス・ネットワークの本格的推進
- (4) 遊休資産等の活用を通じた地域の「稼ぐ力」の向上
- (5) 地方経済の中核・中核都市等への投資の喚起
- (6) 集落生活圏維持のための小さな拠点及び地域運営組織の形成
- (7) 地域共生社会の実現
- (8) 地方公共団体における持続可能な開発目標 (SDGs) の推進

(2) 第 15 次群馬県総合計画はばたけ群馬プランⅡ(平成 28 年度～平成 31 年度)

内 容

～「地域別施策展開【桐生・みどり地域】」について抜粋～

基本目標Ⅰ「地域を支え、経済・社会活動を支える人づくり」の主な取り組み

- 群馬大学や桐生大学などの地元教育機関と地域住民が連携した課題解決への取組を支援。
- 地域農業の安定を図るため、担い手育成や新規就農希望者の受入れ支援・就農後のフォローアップを強化。

基本目標Ⅱ「誰もが安全で安心できる暮らしづくり」の主な取り組み

- 桐生市や関係者と連携し、同市内で発生した林野火災跡地の早期復旧を図る。

基本目標Ⅲ「恵まれた立地条件を活かした産業活力の向上・社会基盤づくり」の主な取り組み

- 北関東道インターチェンジへのアクセス道路となる渡良瀬軸の整備を推進し、国道 50 号前橋笠懸道路の整備促進などにより、都市間移動の円滑化を図る。
- 日光市などと県域を越えた連携を強化し、わたらせ渓谷鐵道や東武鐵道など公共交通機関を活用した観光誘客に取り組み、地域交通の活性化や地域間交流の促進を図る。
- 関係機関との連携による地域に根ざした地場産業（繊維産業等）の維持・強化。

(3) 群馬県版総合戦略(平成 27 年度～平成 31 年度)

内 容

基本目標1:群馬で暮らし始めたいくなる

- 戦略1 交流・移住・定着促進
- 戦略2 東京圏からの人材還流

基本目標2:群馬に住み続けたいくなる

- 戦略3 人材の県内定着
- 戦略4 群馬にしごとをつくり、安心して働けるようにする
- 戦略5 安全・安心な暮らしを維持する地域づくり
- 戦略6 安全・安心な暮らしを守る社会基盤づくり

基本目標3:群馬で家族を増やしたいくなる

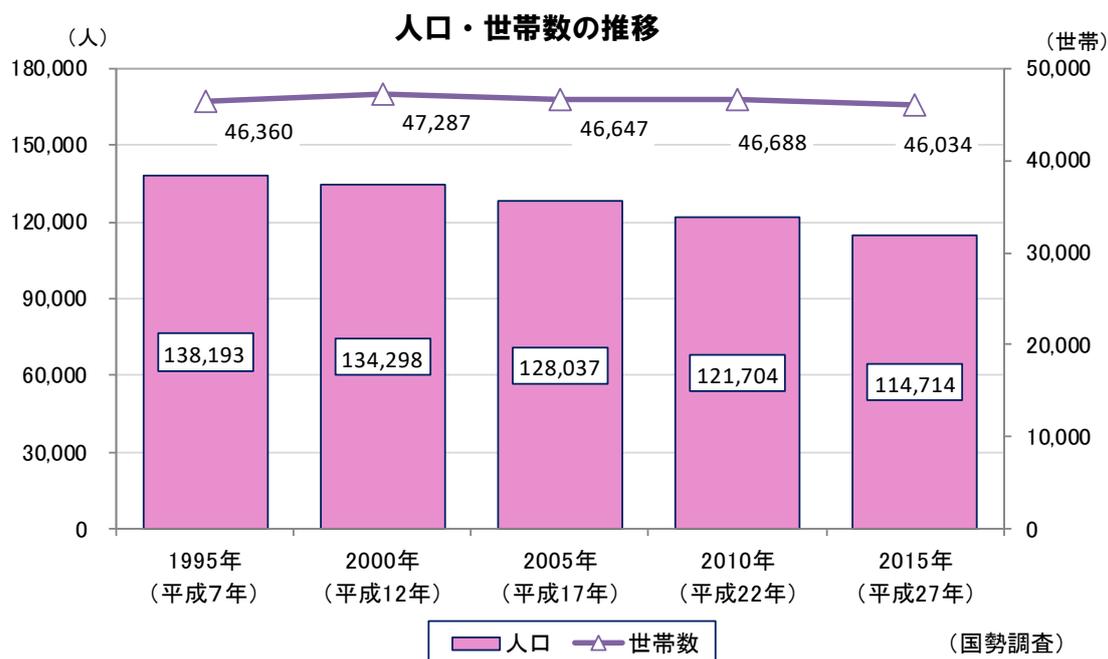
- 戦略7 結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援
- 戦略8 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現

3 桐生市の基礎的な都市状況

(1)人口・世帯

桐生市の人口は 1995 年以降一貫して減少しており、2015 年には 114,714 人と 20 年間で 23,000 人（17%）程度減少しています。世帯数については 2000 年以降減少しており、2015 年には 46,034 世帯と、15 年間で 1,000 世帯程度減少しています。

年齢 3 区分別人口の過去 20 年間の変化率をみると、年少人口（0～14 歳）と生産年齢人口（15～64 歳）については大幅に減少している一方で、老年人口（65 歳以上）は 1.5 倍以上増加しており、少子高齢化が進行していることがわかります。



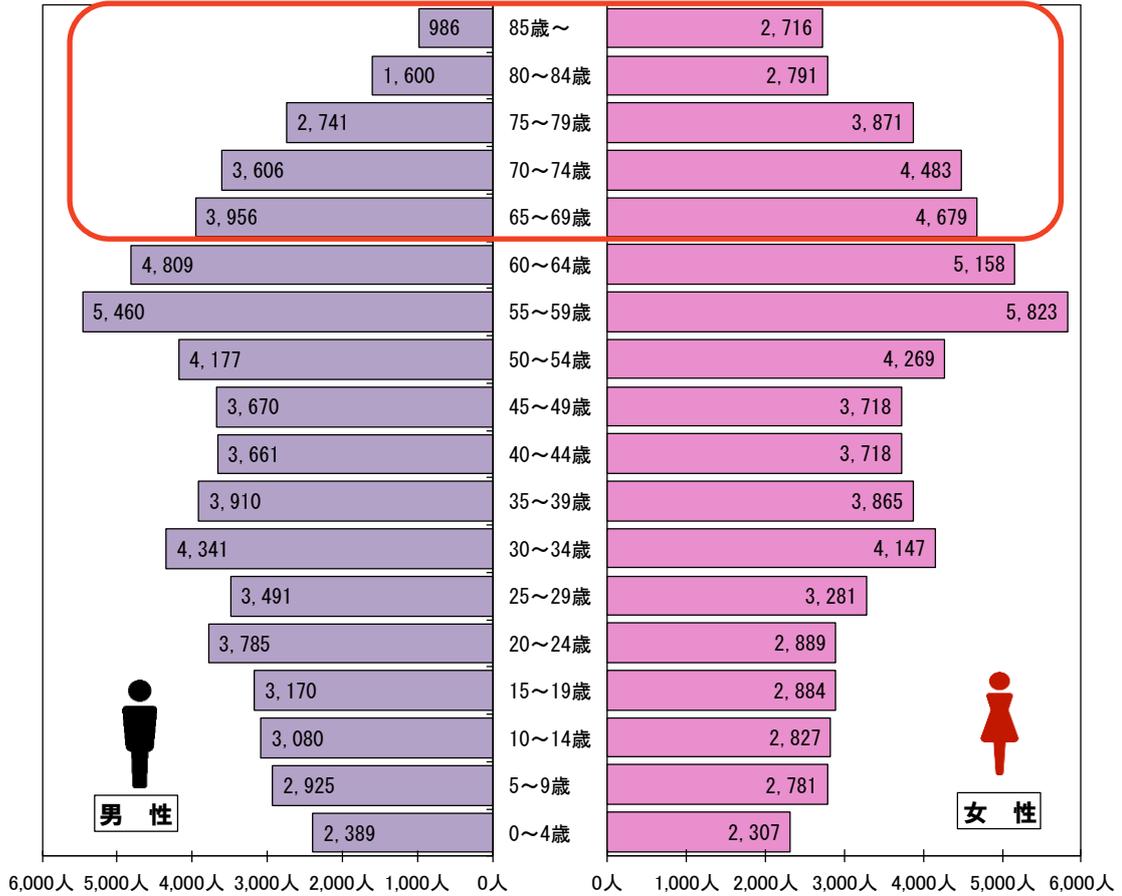
(単位:人、世帯)

| | 1995年 (平成7年) | 2000年 (平成12年) | 2005年 (平成17年) | 2010年 (平成22年) | 2015年 (平成27年) | 変化率 (H7⇒H27) |
|--------------------|-----------------|------------------|------------------|------------------|------------------|-----------------|
| 人口総数 | 138,193 | 134,298 | 128,037 | 121,704 | 114,714 | 83.0% |
| 年少人口 (0～14歳) | 19,760 | 17,933 | 16,309 | 14,353 | 12,062 | 61.0% |
| | 14.3% | 13.4% | 12.7% | 11.8% | 10.5% | |
| 生産年齢人口 (15～64歳) | 94,135 | 88,094 | 80,226 | 72,413 | 64,314 | 68.3% |
| | 68.1% | 65.6% | 62.7% | 59.5% | 56.1% | |
| 老年人口 (65歳以上) | 24,298 | 28,247 | 31,429 | 34,625 | 38,078 | 156.7% |
| | 17.6% | 21.0% | 24.5% | 28.5% | 33.2% | |
| 年齢不詳 | 0 | 24 | 73 | 313 | 260 | - |
| | 0.0% | 0.0% | 0.1% | 0.3% | 0.2% | |
| 世帯総数 | 46,360 | 47,287 | 46,647 | 46,688 | 46,034 | 99.3% |
| 1世帯当たり人員 | 2.98 | 2.84 | 2.74 | 2.61 | 2.49 | 83.6% |

(国勢調査)

※1995年(平成7年)・2000年(平成12年)の各数値は旧桐生市、旧新里村、旧黒保根村の合計値

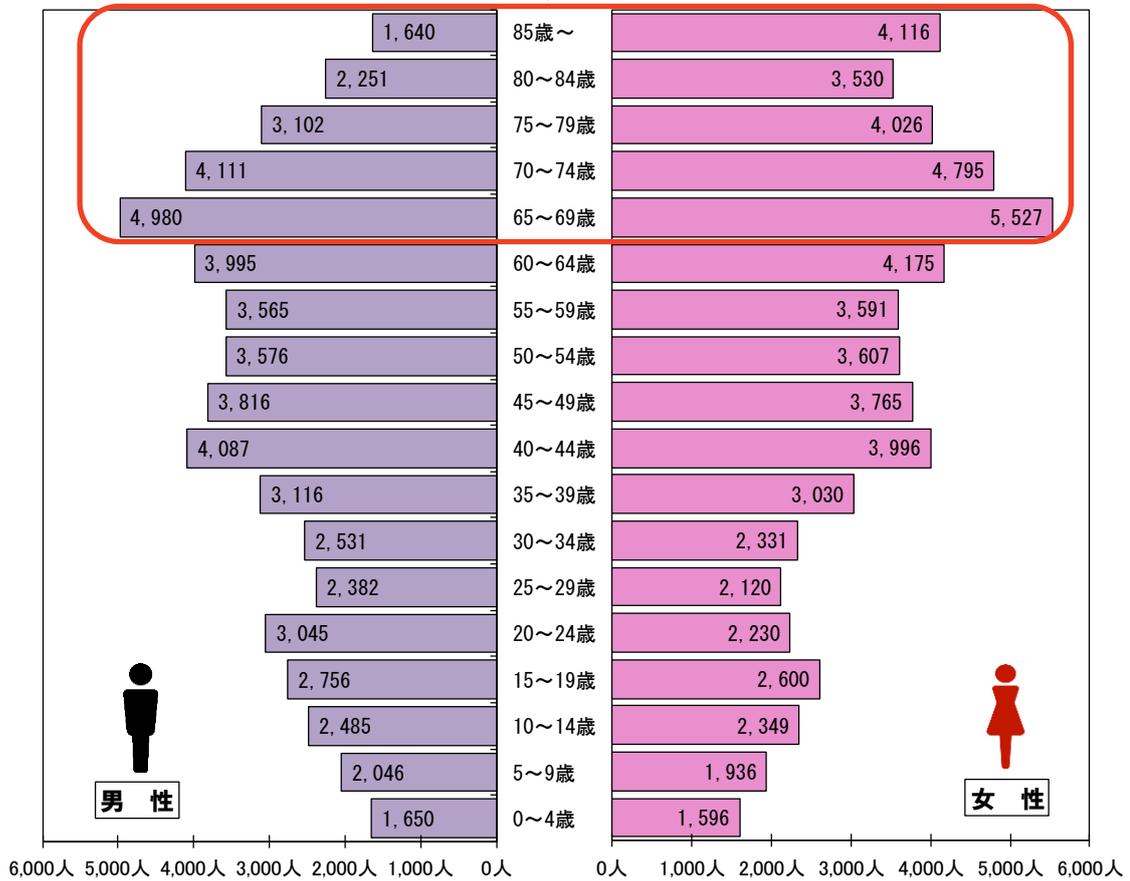
人口構造の変化（2005年⇒2015年）



総人口が減少する中、高齢者人口は増加

(国勢調査(平成17年度))

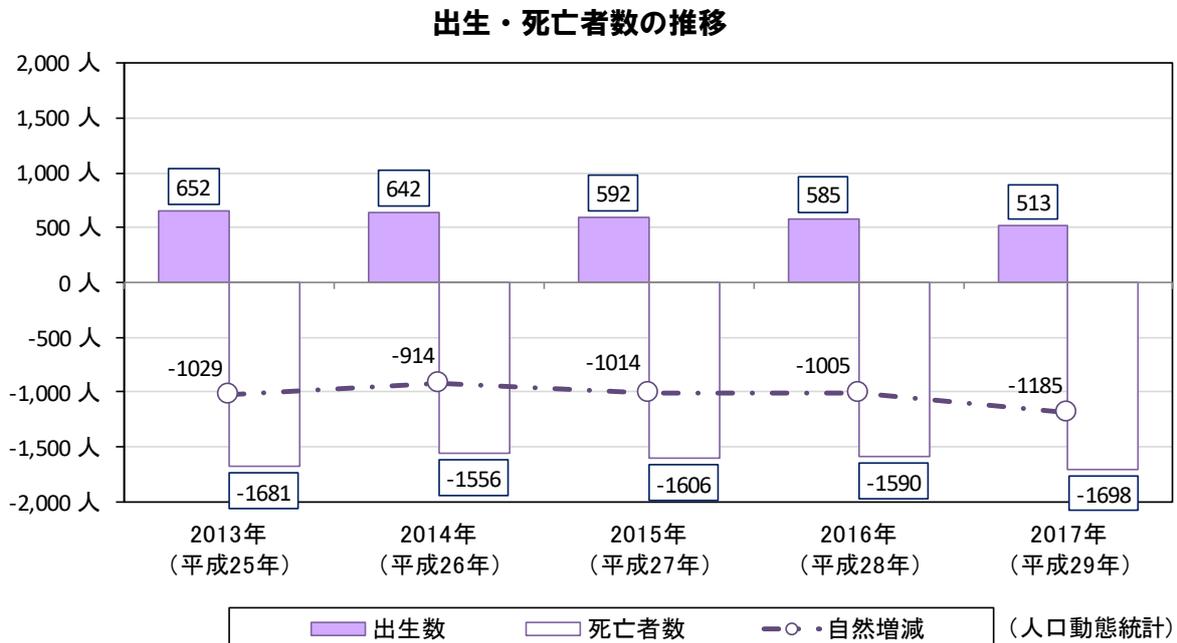
※年齢不詳人口男性39人、女性34人を除く



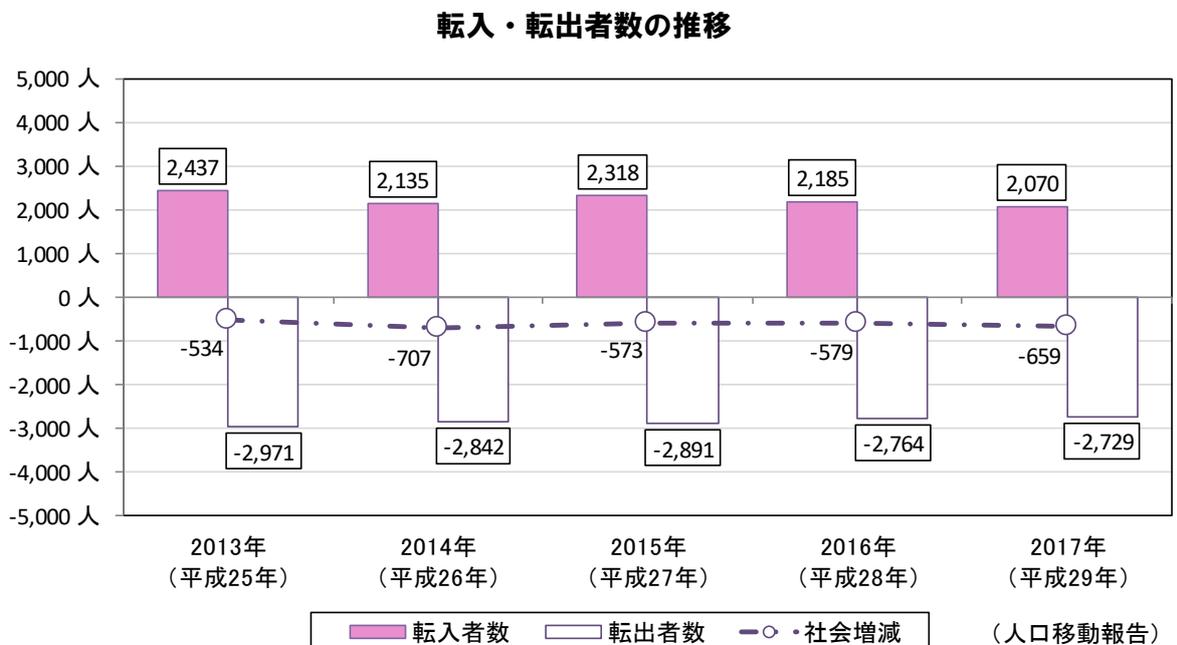
※年齢不詳人口男性193人、女性63人を除く

(2)人口動態

自然増減（出生・死亡者数）については、過去5年間は死亡者数が出生数を1,000人程度上回っており、自然減が続いている状況です。



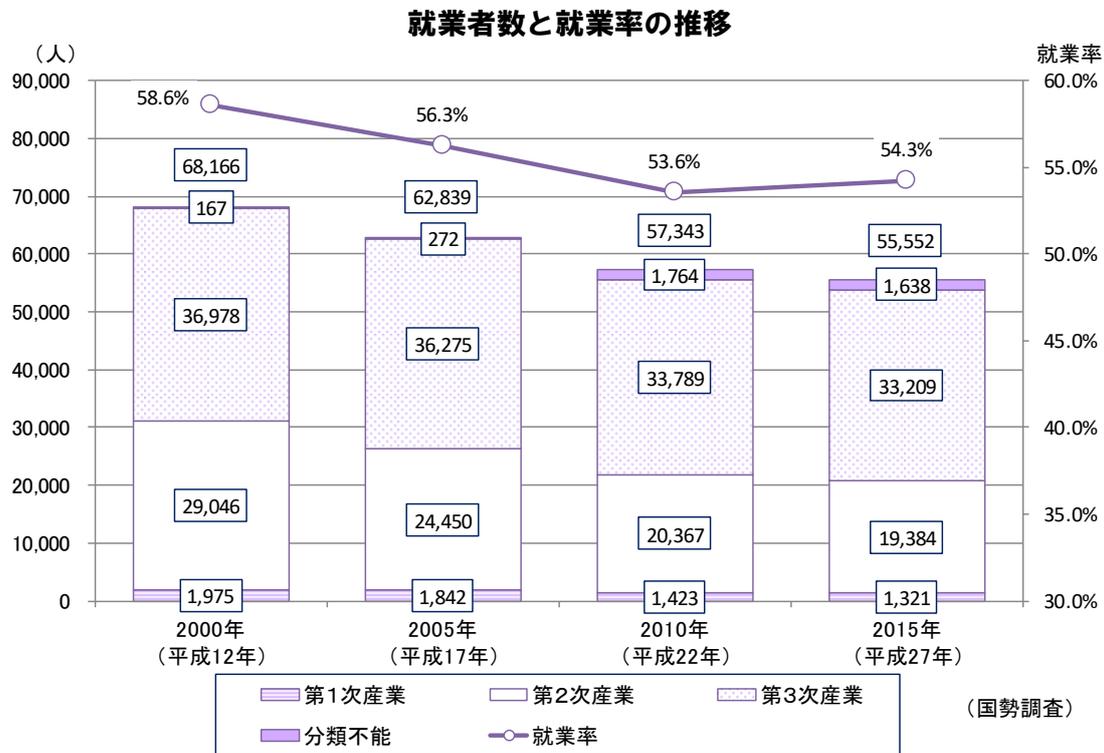
社会増減（転入・転出者数）については、2013年から2017年まで転入者数を転出者数が500～700人程度上回っており、社会減が続いている状況です。



(3) 産業

就業者数の推移をみると、2000年の68,166人から、2015年には55,552人と、15年間で12,500人（18.5%）程度の減少となっています。

産業分類ごとの内訳をみると、第1次産業、第2次産業、第3次産業がそれぞれ一貫して減少しており、特に第1次産業、第2次産業については、15年間で大幅に減少しています。



(単位: 人)

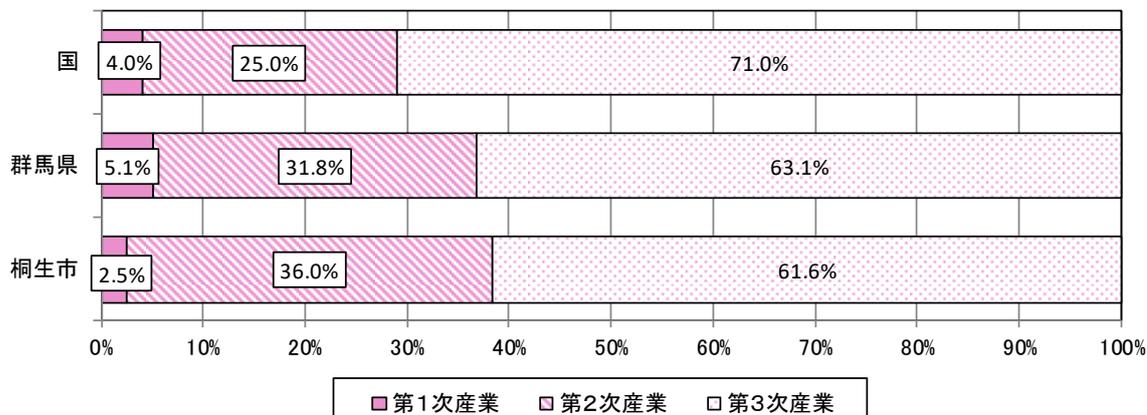
| | 2000年 (平成12年) | | 2005年 (平成17年) | | 2010年 (平成22年) | | 2015年 (平成27年) | | 変化率 (H12⇒H27) |
|---------|------------------|--------|------------------|--------|------------------|--------|------------------|--------|------------------|
| | 就業者数 | 構成比 | 就業者数 | 構成比 | 就業者数 | 構成比 | 就業者数 | 構成比 | |
| 総就業者数 | 68,166 | 100.0% | 62,839 | 100.0% | 57,343 | 100.0% | 55,552 | 100.0% | 81.5% |
| 第1次産業 | 1,975 | 2.9% | 1,842 | 2.9% | 1,423 | 2.5% | 1,321 | 2.4% | 66.9% |
| 第2次産業 | 29,046 | 42.6% | 24,450 | 38.9% | 20,367 | 35.5% | 19,384 | 34.9% | 66.7% |
| 第3次産業 | 36,978 | 54.2% | 36,275 | 57.7% | 33,789 | 58.9% | 33,209 | 59.8% | 89.8% |
| 分類不能 | 167 | 0.2% | 272 | 0.4% | 1,764 | 3.1% | 1,638 | 2.9% | 980.8% |
| 15歳以上人口 | 116,341 | | 111,655 | | 107,038 | | 102,392 | | 88.0% |
| 就業率 | 58.6% | | 56.3% | | 53.6% | | 54.3% | | — |

(国勢調査)

※就業率は15歳以上人口に占める就業者の割合

2015年の産業分類別の就業者構成比を、国・県・桐生市で比較すると、第2次産業は国と県を上回っています。

産業分類別就業者構成比



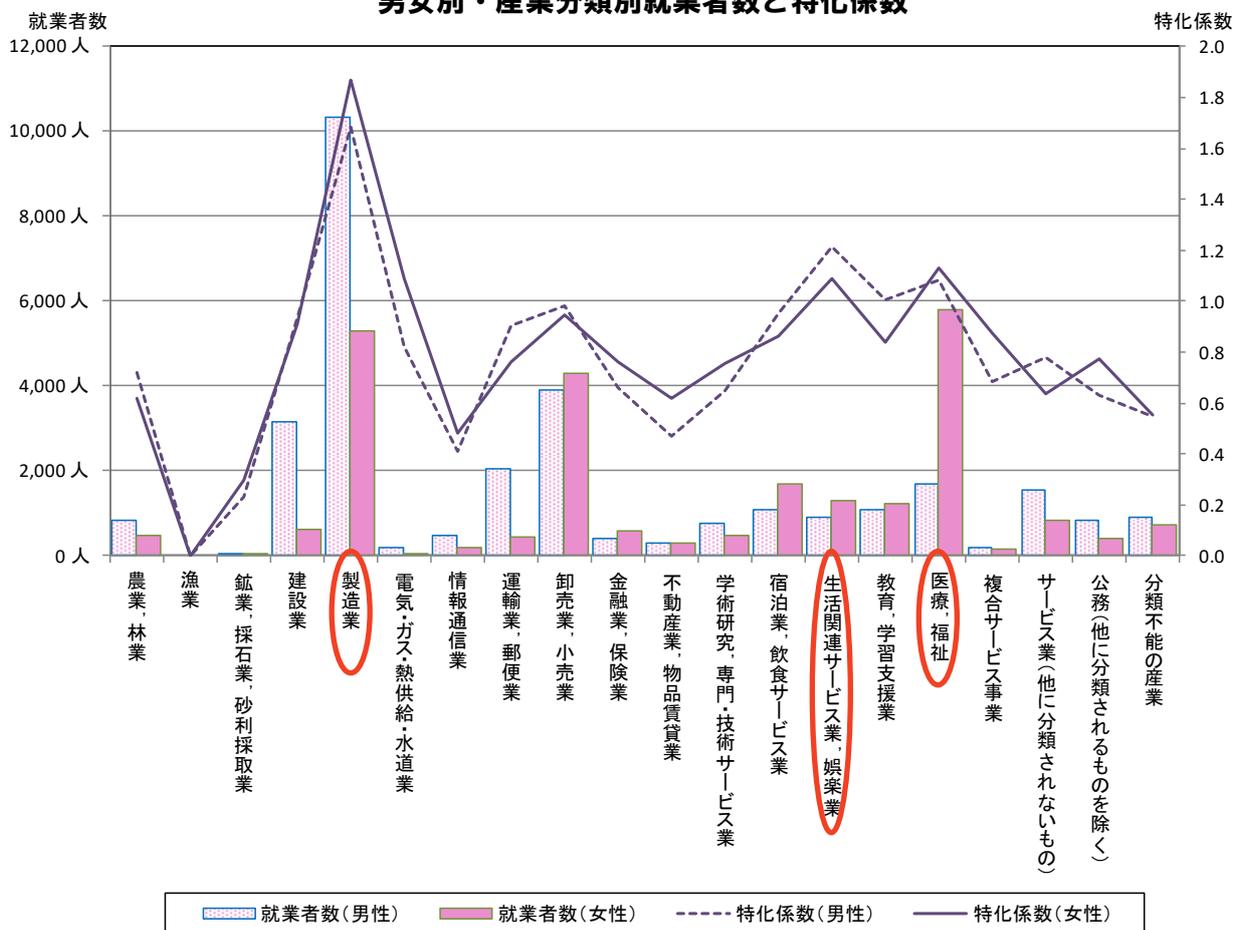
(国勢調査(平成27年))

※分類不能を除いた総数に占める割合

2015年の就業者数について産業分類別にみると、男性では「製造業」が、女性では「医療、福祉」が最も多くなっています。

特化係数については男女ともに「製造業」が最も高く、男性 1.68、女性 1.87 となっています。その他に、「生活関連サービス業、娯楽業」「医療、福祉」が男女ともに特化係数 1 を超えています。

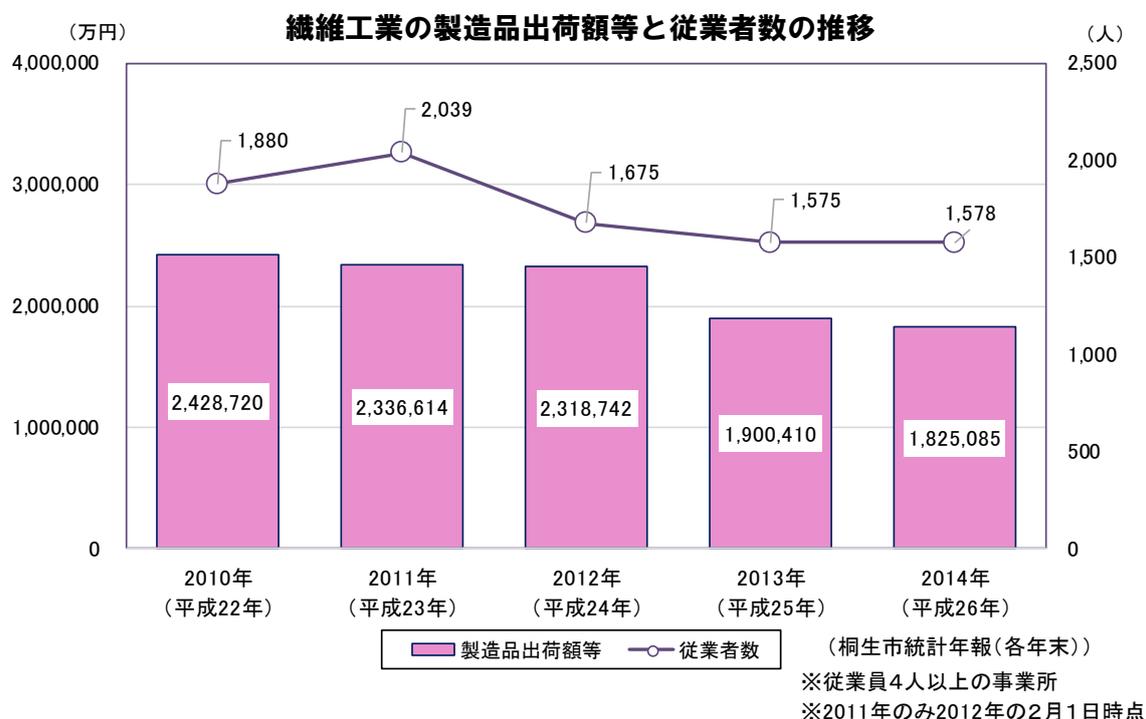
男女別・産業分類別就業者数と特化係数



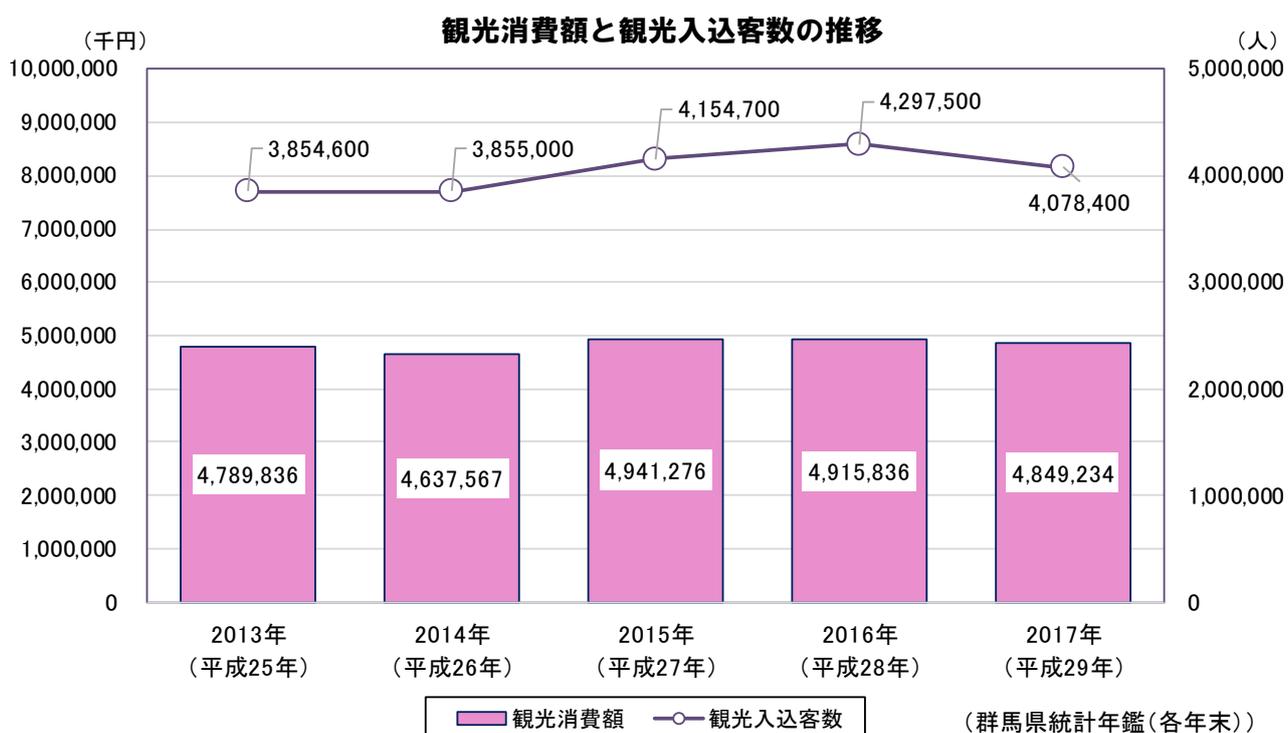
(国勢調査(平成27年))

※特化係数は桐生市の各産業の就業者比率を全国の各産業の就業者比率で除した値
1以上であれば全国と比較して就業者比率が特化している産業となる

織物業を含む繊維工業の製造品出荷額等については、過去5年間で一貫して減少しています。また、従業者数については、2011年以降減少しています。



観光消費額については、2015年以降減少しています。観光入込客数については、2016年まで増加していましたが、2017年に減少に転じています。



4 近隣・類似都市との比較

本項では、主要な統計指標データについて近隣都市（県内 11 市＋県外 1 市）及び類似都市（関東 1 都 6 県の中で、総務省の平成 29 年度類似団体別市町村財政指数表による都市分類で [Ⅲ－2] と分類された類似団体 3 市）で比較・分析を行います。

<参考：比較対象都市>

| 近隣都市 (県内 11 市＋県外 1 市) | | 類似都市 [Ⅲ－2] (関東 1 都 6 県の類似団体 3 市) |
|--------------------------|-----------|-------------------------------------|
| 前橋市 (中核市) | 高崎市 (中核市) | 古河市 (茨城県) 佐野市 (栃木県) 加須市 (埼玉県) |
| 伊勢崎市 (特例市) | 太田市 (特例市) | |
| 沼田市 (Ⅰ－1) | 館林市 (Ⅱ－2) | |
| 渋川市 (Ⅱ－2) | 藤岡市 (Ⅱ－2) | |
| 富岡市 (Ⅰ－2) | 安中市 (Ⅱ－2) | |
| みどり市 (Ⅱ－2) | 足利市 (Ⅳ－2) | |

※総務省：平成 29 年度類似団体別市町村財政指数表による都市分類（「人口」「産業構造」により設定）

※一部の統計指標については、統計の出典の関係で、県内の自治体のみの比較になっている場合があります。

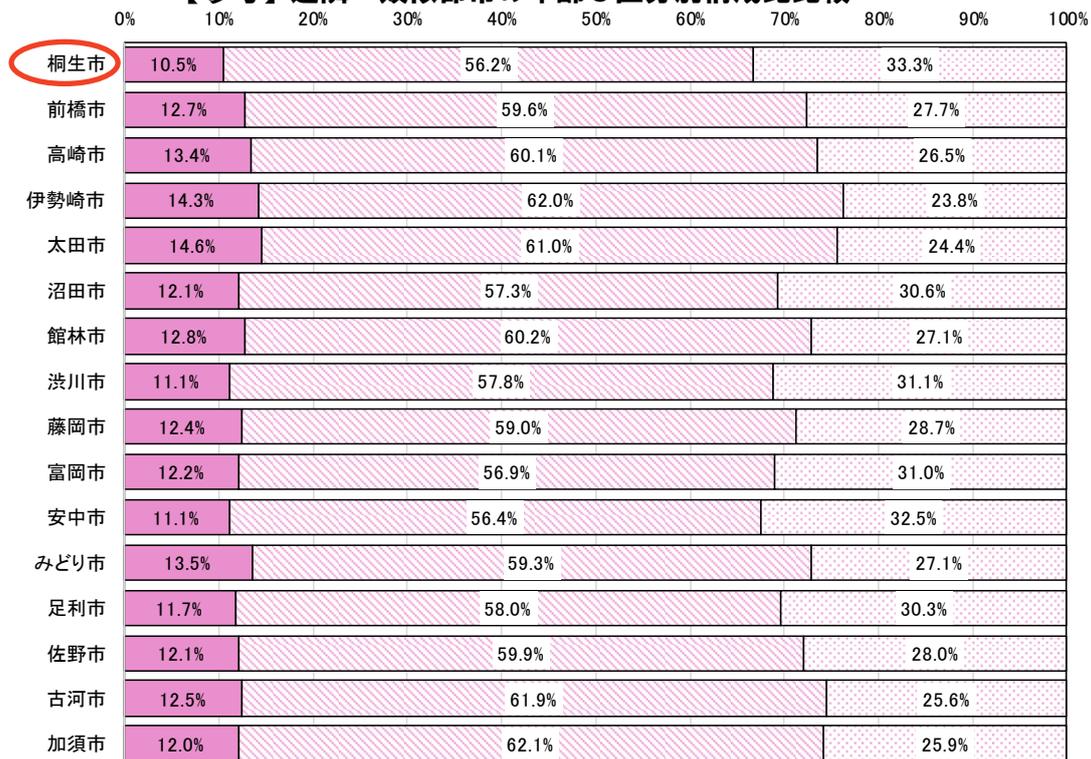
※各項目における分析については、大きな特徴がみられる統計指標についてのみ記載しています。

(1)近隣・類似都市との人口関連比較

○2015年の桐生市の年齢別人口構成比は、16市の中で、年少人口（0～14歳）・生産年齢人口（15歳～64歳）の比率が最も低く、老年人口（65歳以上）の比率が最も高い。

| 区分 | 人口 | | | | | | | | | |
|------|-------------------------------|-----------------|-------------|-----------------|--------------|---------------------|--------------|-----------------|--------------|--|
| | 総人口 | 未就学人口 (0～5歳) | | 年少人口 (0～14歳) | | 生産年齢人口 (15歳～64歳) | | 老年人口 (65歳以上) | | |
| 時点 | 2015.10.1 | | | | | | | | | |
| 単位 | 人 | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | |
| 群馬県 | 1,973,115 | 89,994 | 4.6% | 250,884 | 12.8% | 1,165,780 | 59.6% | 540,026 | 27.6% | |
| 桐生市 | 114,714 | 3,976 | 3.5% | 12,062 | 10.5% | 64,314 | 56.2% | 38,078 | 33.3% | |
| 前橋市 | 336,154 | 15,293 | 4.6% | 41,961 | 12.7% | 196,034 | 59.6% | 91,143 | 27.7% | |
| 高崎市 | 370,884 | 18,373 | 5.0% | 49,298 | 13.4% | 221,228 | 60.1% | 97,466 | 26.5% | |
| 伊勢崎市 | 208,814 | 10,815 | 5.2% | 29,540 | 14.3% | 128,354 | 62.0% | 49,221 | 23.8% | |
| 太田市 | 219,807 | 11,753 | 5.4% | 31,912 | 14.6% | 133,417 | 61.0% | 53,309 | 24.4% | |
| 沼田市 | 48,676 | 1,997 | 4.1% | 5,872 | 12.1% | 27,742 | 57.3% | 14,831 | 30.6% | |
| 館林市 | 76,667 | 3,436 | 4.5% | 9,688 | 12.8% | 45,718 | 60.2% | 20,560 | 27.1% | |
| 渋川市 | 78,391 | 3,034 | 3.9% | 8,655 | 11.1% | 45,161 | 57.8% | 24,303 | 31.1% | |
| 藤岡市 | 65,708 | 2,750 | 4.2% | 8,110 | 12.4% | 38,660 | 59.0% | 18,807 | 28.7% | |
| 富岡市 | 49,746 | 2,058 | 4.2% | 6,037 | 12.2% | 28,183 | 56.9% | 15,342 | 31.0% | |
| 安中市 | 58,531 | 2,165 | 3.7% | 6,466 | 11.1% | 32,834 | 56.4% | 18,934 | 32.5% | |
| みどり市 | 50,906 | 2,402 | 4.8% | 6,833 | 13.5% | 29,966 | 59.3% | 13,709 | 27.1% | |
| 栃木県 | 1,974,255 | 93,368 | 4.8% | 252,836 | 12.9% | 1,203,616 | 61.3% | 508,392 | 25.9% | |
| 足利市 | 149,452 | 5,891 | 4.0% | 17,432 | 11.7% | 86,168 | 58.0% | 45,047 | 30.3% | |
| 佐野市 | 118,919 | 5,300 | 4.5% | 14,364 | 12.1% | 70,826 | 59.9% | 33,079 | 28.0% | |
| 茨城県 | 2,916,976 | 132,566 | 4.6% | 364,351 | 12.6% | 1,747,312 | 60.6% | 771,678 | 26.8% | |
| 古河市 | 140,946 | 6,392 | 4.5% | 17,562 | 12.5% | 87,054 | 61.9% | 35,974 | 25.6% | |
| 埼玉県 | 7,266,534 | 344,204 | 4.8% | 910,805 | 12.6% | 4,507,174 | 62.5% | 1,788,735 | 24.8% | |
| 加須市 | 112,229 | 4,727 | 4.2% | 13,510 | 12.0% | 69,647 | 62.1% | 28,991 | 25.9% | |
| 資料 | 総務省 国勢調査 (2015年(平成27年)) | | | | | | | | | |

【参考】近隣・類似都市の年齢3区分別構成比比較



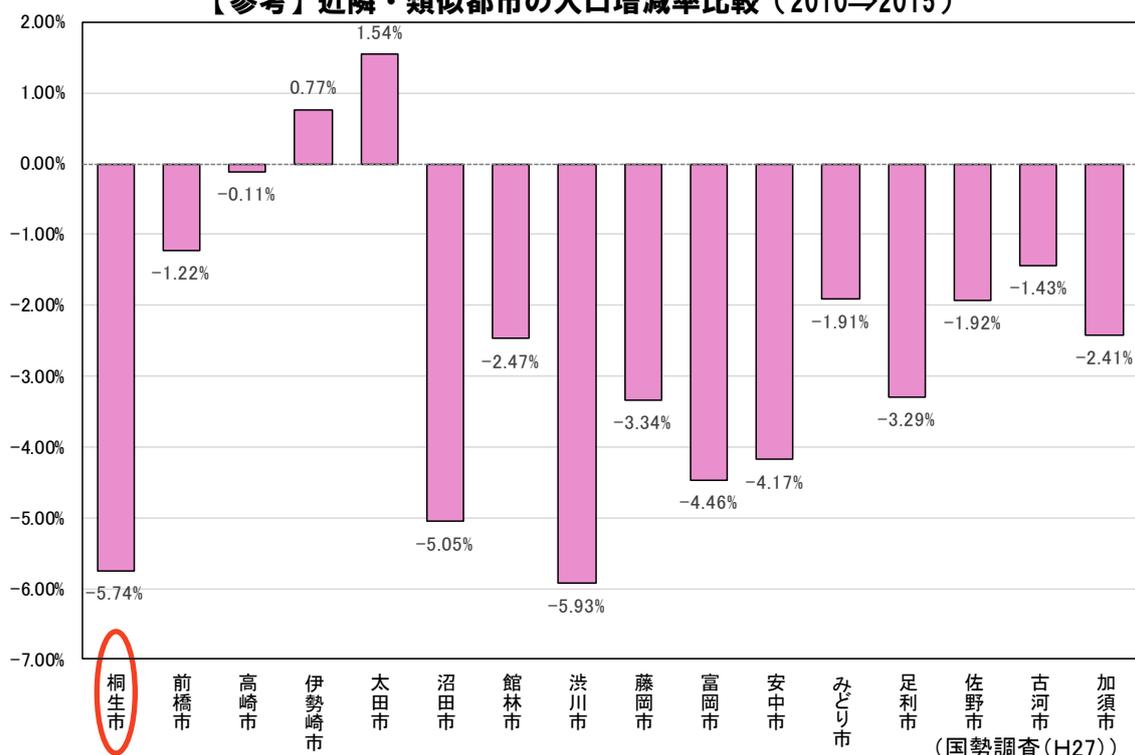
■年少人口 (0～14歳) □生産年齢人口 (15歳～64歳) □老年人口 (65歳以上) (国勢調査(H27))

○2015年の桐生市の昼夜間人口比率は、16市の中で伊勢崎市に次いで8番目に高い。

○過去5年間（2010⇒2015）の桐生市の人口増減率は、16市の中で渋川市に次いで2番目に低い。

| 区分 | 面積 | 人口密度 | 世帯数 | 昼夜間人口比率 | 人口増減数 (2010⇒2015) | 人口増減率 (2010⇒2015) |
|------|------------------------|-------------------|---------------|--------------|----------------------|----------------------|
| 時点 | 2015.10.1 | | | | | |
| 単位 | km ² | 人/km ² | 世帯 | % | 人 | % |
| 群馬県 | 6,362.28 | 310.1 | 773,952 | 99.83 | -34,953 | -1.74% |
| 桐生市 | 274.45 | 418.0 | 46,034 | 98.10 | -6,990 | -5.74% |
| 前橋市 | 311.59 | 1,078.8 | 136,900 | 104.54 | -4,137 | -1.22% |
| 高崎市 | 459.16 | 807.7 | 150,180 | 101.83 | -418 | -0.11% |
| 伊勢崎市 | 139.44 | 1,497.5 | 80,110 | 98.22 | 1,593 | 0.77% |
| 太田市 | 175.54 | 1,252.2 | 86,267 | 107.22 | 3,342 | 1.54% |
| 沼田市 | 443.46 | 109.8 | 19,178 | 97.54 | -2,589 | -5.05% |
| 館林市 | 60.97 | 1,257.5 | 30,219 | 98.55 | -1,941 | -2.47% |
| 渋川市 | 240.27 | 326.3 | 28,812 | 96.34 | -4,939 | -5.93% |
| 藤岡市 | 180.29 | 364.5 | 24,569 | 94.28 | -2,267 | -3.34% |
| 富岡市 | 122.85 | 404.9 | 18,255 | 101.24 | -2,324 | -4.46% |
| 安中市 | 276.31 | 211.8 | 22,381 | 92.78 | -2,546 | -4.17% |
| みどり市 | 208.42 | 244.2 | 18,867 | 88.19 | -993 | -1.91% |
| 栃木県 | 6,408.09 | 308.1 | 763,097 | 99.03 | -33,428 | -1.67% |
| 足利市 | 177.76 | 840.8 | 60,186 | 97.06 | -5,078 | -3.29% |
| 佐野市 | 356.04 | 334.0 | 46,390 | 99.50 | -2,330 | -1.92% |
| 茨城県 | 6,097.06 | 478.4 | 1,124,349 | 97.46 | -52,794 | -1.78% |
| 古河市 | 123.58 | 1,140.5 | 52,571 | 93.45 | -2,049 | -1.43% |
| 埼玉県 | 3,797.75 | 1,913.4 | 2,971,659 | 88.85 | 71,978 | 1.00% |
| 加須市 | 133.30 | 841.9 | 41,034 | 92.56 | -2,773 | -2.41% |
| 資料 | 総務省 | | | | | |
| | 国勢調査 (2015年(平成27年)) | | | | | |

【参考】近隣・類似都市の人口増減率比較（2010⇒2015）

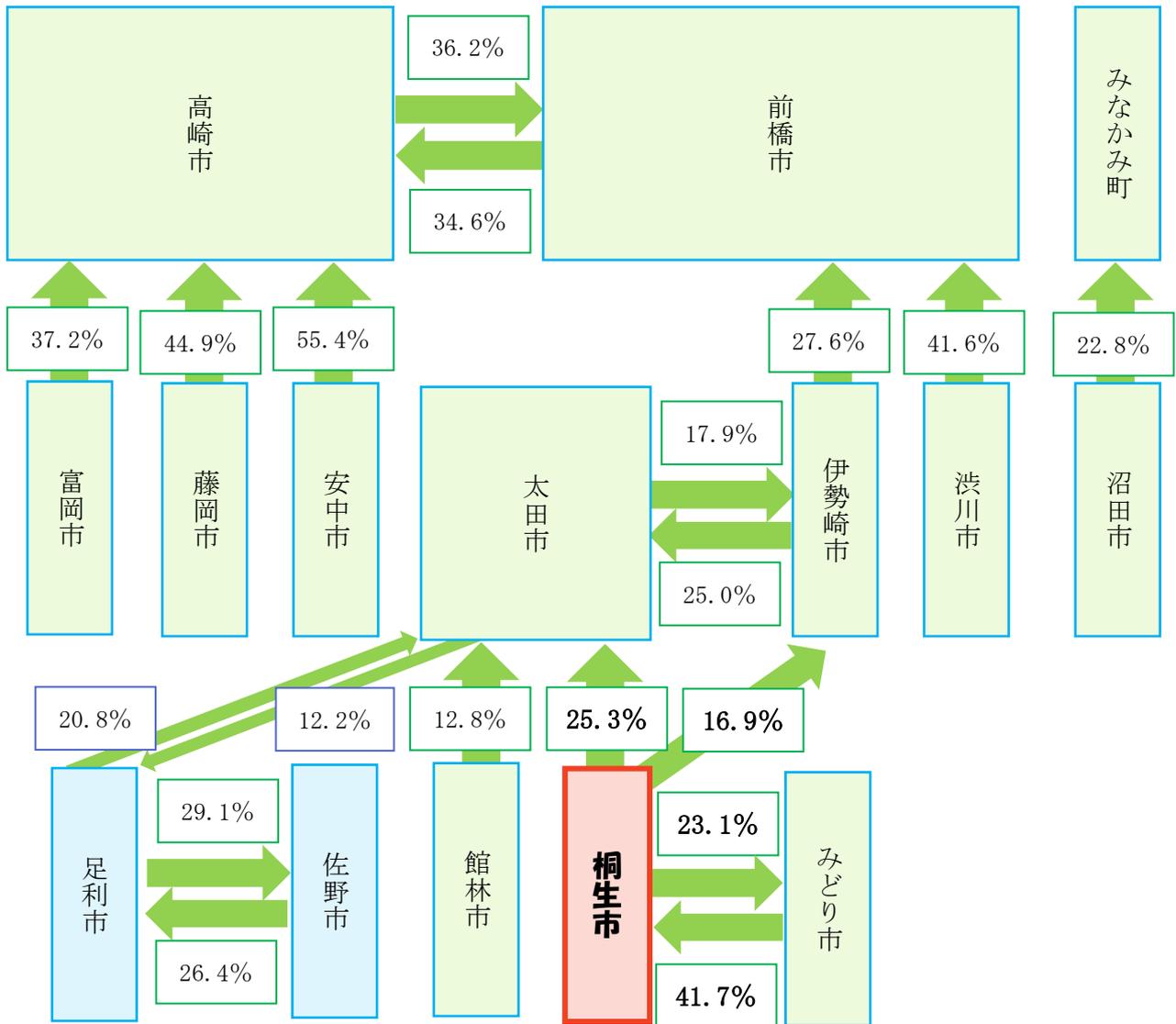


○2017年の桐生市の自然増減は、16市の中で前橋市に次いで2番目に減少幅が大きい。

○2017年の桐生市の社会増減は、16市の中で最も減少幅が大きい。

| 区分 | 自然動態 | | | 社会動態 | | |
|------|--------------------------|--------------|---------------|--------------------------------|--------------|-------------|
| | 出生数 | 死亡者数 | 自然増減 | 転入者数 | 転出者数 | 社会増減 |
| 時点 | 2017(年間) | | | 2017(年間) | | |
| 単位 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 群馬県 | 13,279 | 22,585 | -9,306 | 52,853 | 56,484 | -3,631 |
| 桐生市 | 513 | 1,698 | -1,185 | 2,070 | 2,729 | -659 |
| 前橋市 | 2,329 | 3,699 | -1,370 | 9,258 | 9,500 | -242 |
| 高崎市 | 2,986 | 3,979 | -993 | 11,078 | 11,374 | -296 |
| 伊勢崎市 | 1,629 | 2,020 | -391 | 5,870 | 5,577 | 293 |
| 太田市 | 1,706 | 2,158 | -452 | 6,213 | 6,023 | 190 |
| 沼田市 | 281 | 660 | -379 | 925 | 1,290 | -365 |
| 館林市 | 470 | 890 | -420 | 1,829 | 2,219 | -390 |
| 渋川市 | 433 | 1,010 | -577 | 1,729 | 2,163 | -434 |
| 藤岡市 | 346 | 789 | -443 | 1,581 | 1,704 | -123 |
| 富岡市 | 279 | 651 | -372 | 1,048 | 1,144 | -96 |
| 安中市 | 314 | 769 | -455 | 1,145 | 1,339 | -194 |
| みどり市 | 349 | 610 | -261 | 1,329 | 1,581 | -252 |
| 栃木県 | 14,029 | 21,829 | -7,800 | 54,391 | 56,001 | -1,610 |
| 足利市 | 863 | 1,983 | -1,120 | 2,975 | 3,200 | -225 |
| 佐野市 | 802 | 1,523 | -721 | 2,534 | 2,689 | -155 |
| 茨城県 | 20,431 | 32,260 | -11,829 | 89,919 | 92,931 | -3,012 |
| 古河市 | 1,043 | 1,498 | -455 | 3,913 | 3,880 | 33 |
| 埼玉県 | 53,069 | 65,764 | -12,695 | 297,101 | 282,178 | 14,923 |
| 加須市 | 650 | 1,119 | -469 | 3,266 | 3,158 | 108 |
| 資料 | 厚労省 | | | 総務省 | | |
| | 人口動態調査 (2017年(平成29年)) | | | 住民基本台帳人口移動報告 (2017年(平成29年)) | | |

【参考】近隣都市の通勤・通学による人口流出からみた都市相関チャート



(国勢調査(H27))

※各市の他市町村への通勤・通学者における割合(割合が高い通勤・通学先のみ掲載)

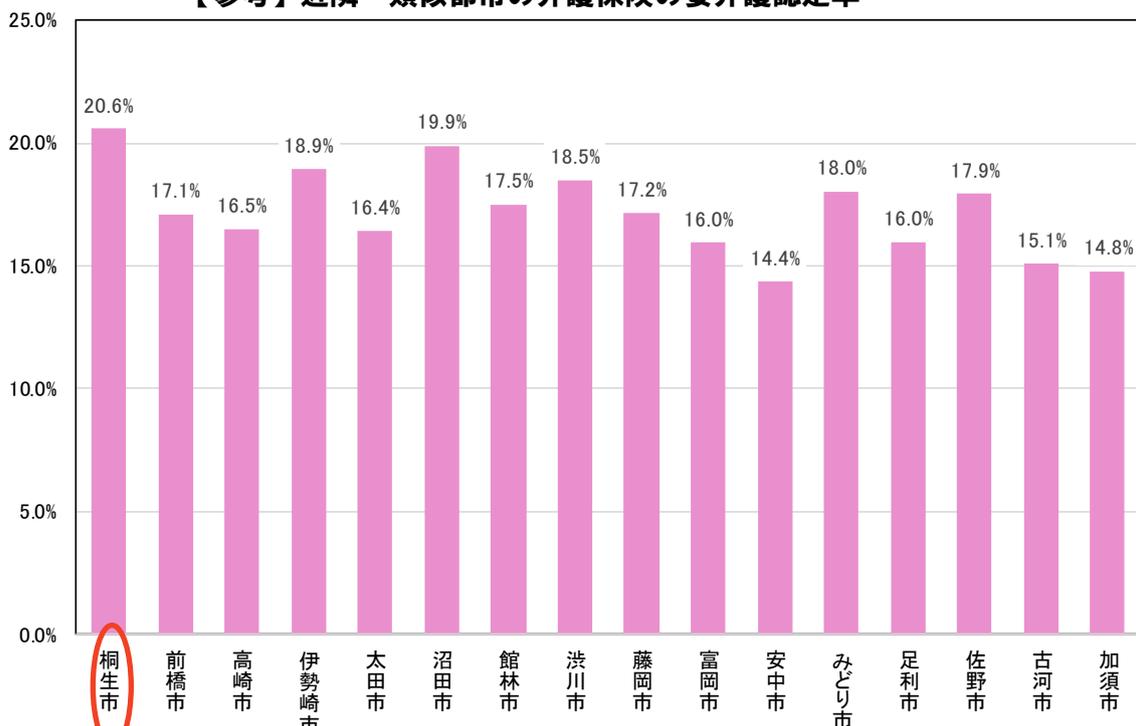
(2)福祉・教育関連

○2018年5月末時点の桐生市の介護保険の要介護認定率は、16市の中で最も高い。

○2017年10月の桐生市の保育所等の定員充足率は、16市の中で古河市に次いで6番目に低い。

| 区分 | 介護保険 | | | 保育所等 | | | |
|------|--|--------------|--------------|------------------------------------|--------------|--------------|--------------|
| | 第1号 被保険者数 | 認定者数 | 認定率 | 施設数 | 定員 | 在所要者数 | 定員充足率 |
| 時点 | 2018.5末 | | | 2017.10.1 | | | |
| 単位 | 人 | 人 | % | 施設 | 人 | 人 | % |
| 群馬県 | 567,598 | 98,490 | 17.4% | 440 | 44,975 | 42,964 | 95.5% |
| 桐生市 | 39,080 | 8,041 | 20.6% | 29 | 2,705 | 2,372 | 87.7% |
| 前橋市 | 95,759 | 16,391 | 17.1% | 71 | 7,261 | 7,052 | 97.1% |
| 高崎市 | 101,294 | 16,720 | 16.5% | 87 | 8,229 | 7,901 | 96.0% |
| 伊勢崎市 | 51,718 | 9,789 | 18.9% | 46 | 5,394 | 5,569 | 103.2% |
| 太田市 | 55,949 | 9,186 | 16.4% | 46 | 5,550 | 5,202 | 93.7% |
| 沼田市 | 15,568 | 3,097 | 19.9% | 12 | 1,140 | 1,149 | 100.8% |
| 館林市 | 21,496 | 3,764 | 17.5% | 15 | 1,660 | 1,605 | 96.7% |
| 渋川市 | 25,712 | 4,751 | 18.5% | 13 | 1,550 | 1,506 | 97.2% |
| 藤岡市 | 19,824 | 3,401 | 17.2% | 22 | 2,020 | 1,648 | 81.6% |
| 富岡市 | 15,355 | 2,450 | 16.0% | 18 | 1,486 | 1,386 | 93.3% |
| 安中市 | 22,824 | 3,278 | 14.4% | 15 | 1,115 | 925 | 83.0% |
| みどり市 | 14,332 | 2,585 | 18.0% | 11 | 1,320 | 1,191 | 90.2% |
| 栃木県 | 541,402 | 86,124 | 15.9% | 412 | 40,112 | 34,521 | 86.1% |
| 足利市 | 46,360 | 7,401 | 16.0% | 31 | 3,394 | 2,836 | 83.6% |
| 佐野市 | 34,952 | 6,268 | 17.9% | 25 | 2,349 | 1,929 | 82.1% |
| 茨城県 | 820,297 | 126,999 | 15.5% | 578 | 57,093 | 52,726 | 92.4% |
| 古河市 | 38,684 | 5,831 | 15.1% | 29 | 2,437 | 2,046 | 84.0% |
| 埼玉県 | 1,887,992 | 286,314 | 15.2% | 1,043 | 90,509 | 85,330 | 94.3% |
| 加須市 | 31,655 | 4,683 | 14.8% | 23 | 2,321 | 2,057 | 88.6% |
| 資料 | 厚労省 介護保険事業状況報告 (2018年(平成30年)5月末) | | | 厚労省 社会福祉施設等調査 (2017年(平成29年)) | | | |

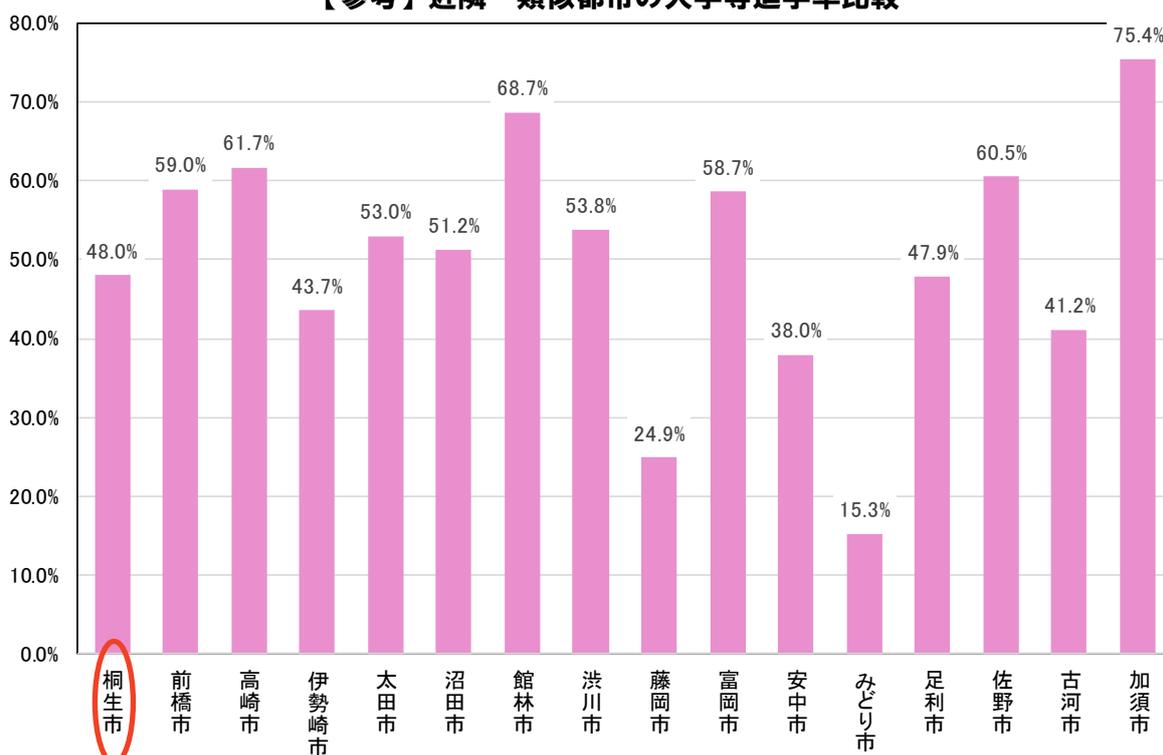
【参考】近隣・類似都市の介護保険の要介護認定率



- 2016年度の桐生市に所在する高校の卒業生数は、16市の中で前橋市・高崎市に次いで3番目に多い。
- 2016年度の桐生市に所在する高校の卒業生の大学等への進学率は、16市の中で7番目に低い。

| 区分 | 高卒者進路 | | |
|------|----------------------------|--------------|--------------|
| | 卒業生数 | 大学等 進学者数 | 就職者数 |
| 時点 | 2017.5.1 | | |
| 単位 | 人 | 人 | % |
| 群馬県 | 17,056 | 8,905 | 52.2% |
| 桐生市 | 2,092 | 1,004 | 48.0% |
| 前橋市 | 3,277 | 1,933 | 59.0% |
| 高崎市 | 4,046 | 2,497 | 61.7% |
| 伊勢崎市 | 1,221 | 533 | 43.7% |
| 太田市 | 1,718 | 911 | 53.0% |
| 沼田市 | 562 | 288 | 51.2% |
| 館林市 | 655 | 450 | 68.7% |
| 渋川市 | 723 | 389 | 53.8% |
| 藤岡市 | 466 | 116 | 24.9% |
| 富岡市 | 421 | 247 | 58.7% |
| 安中市 | 495 | 188 | 38.0% |
| みどり市 | 118 | 18 | 15.3% |
| 栃木県 | 17,493 | 9,066 | 51.8% |
| 足利市 | 2,073 | 993 | 47.9% |
| 佐野市 | 1,366 | 827 | 60.5% |
| 茨城県 | 25,284 | 12,784 | 50.6% |
| 古河市 | 979 | 403 | 41.2% |
| 埼玉県 | 57,262 | 32,989 | 57.6% |
| 加須市 | 1,148 | 866 | 75.4% |
| 資料 | 文部科学省 | | |
| | 学校基本調査 (2017年度(平成29年度)) | | |

【参考】近隣・類似都市の大学等進学率比較



(学校基本調査(H29))

※大学等には専修学校は含まない

(3) 産業、生活関連

○2015年の産業別就業者比率を16市で比較すると、桐生市の第2次産業の比率は8番目に高い。

○2015年の桐生市の販売農家数は、16市の中で、みどり市に次いで2番目に少ない。

○2015年の桐生市の森林面積は、16市の中で4番目に広い。

| 区分 | 就業者数 | | 産業別就業者数 | | | | | | 農林漁業 | | |
|------|--|--------------|--------------|-------------|---------------|--------------|---------------|--------------|--|---------------|----------|
| | | | 第1次産業 | | 第2次産業 | | 第3次産業 | | 販売農家数 | 森林面積 | |
| 時点 | 2015.10.1 | | | | | | | | | 2015.2.1 | 2015.2.1 |
| 単位 | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 戸 | ha | |
| 群馬県 | 966,060 | 56.6% | 47,943 | 5.1% | 297,919 | 31.8% | 591,710 | 63.1% | 25,520 | 405,580 | |
| 桐生市 | 55,552 | 54.3% | 1,321 | 2.5% | 19,384 | 36.0% | 33,209 | 61.6% | 603 | 19,606 | |
| 前橋市 | 162,431 | 56.6% | 6,767 | 4.3% | 37,107 | 23.8% | 112,113 | 71.9% | 3,701 | 7,329 | |
| 高崎市 | 177,776 | 55.8% | 5,025 | 2.9% | 47,889 | 27.8% | 119,159 | 69.2% | 3,460 | 20,874 | |
| 伊勢崎市 | 102,160 | 57.5% | 3,951 | 4.0% | 35,843 | 36.5% | 58,336 | 59.4% | 1,717 | 25 | |
| 太田市 | 105,433 | 56.5% | 3,930 | 3.9% | 40,765 | 40.0% | 57,225 | 56.1% | 2,324 | 904 | |
| 沼田市 | 24,516 | 57.6% | 2,951 | 12.2% | 6,037 | 25.0% | 15,137 | 62.7% | 1,110 | 33,979 | |
| 館林市 | 36,491 | 55.1% | 1,541 | 4.3% | 12,790 | 35.8% | 21,401 | 59.9% | 778 | 44 | |
| 洪川市 | 38,338 | 55.2% | 2,475 | 6.7% | 10,546 | 28.4% | 24,053 | 64.9% | 1,359 | 12,532 | |
| 藤岡市 | 32,734 | 57.0% | 1,440 | 4.5% | 11,696 | 36.1% | 19,221 | 59.4% | 861 | 10,483 | |
| 富岡市 | 25,078 | 57.6% | 1,791 | 7.2% | 9,825 | 39.6% | 13,175 | 53.1% | 915 | 4,637 | |
| 安中市 | 28,533 | 55.1% | 1,348 | 4.9% | 9,587 | 34.8% | 16,614 | 60.3% | 878 | 16,541 | |
| みどり市 | 25,687 | 58.8% | 1,147 | 4.6% | 8,958 | 35.8% | 14,888 | 59.6% | 432 | 16,658 | |
| 栃木県 | 963,969 | 56.3% | 53,177 | 5.7% | 296,120 | 31.9% | 578,864 | 62.4% | 39,810 | 340,314 | |
| 足利市 | 71,758 | 54.7% | 1,292 | 1.8% | 25,931 | 36.9% | 42,981 | 61.2% | 939 | 7,942 | |
| 佐野市 | 58,152 | 56.0% | 1,589 | 2.8% | 20,743 | 36.3% | 34,796 | 60.9% | 1,369 | 21,818 | |
| 茨城県 | 1,400,684 | 55.6% | 78,996 | 5.9% | 399,707 | 29.8% | 864,715 | 64.4% | 57,239 | 185,424 | |
| 古河市 | 69,938 | 56.8% | 2,754 | 4.1% | 25,568 | 38.2% | 38,670 | 57.7% | 1,713 | 909 | |
| 埼玉県 | 3,484,648 | 55.3% | 55,488 | 1.7% | 803,861 | 24.9% | 2,367,338 | 73.4% | 36,743 | 119,366 | |
| 加須市 | 57,743 | 58.5% | 2,631 | 4.8% | 16,350 | 29.8% | 35,818 | 65.4% | 3,010 | 6 | |
| 資料 | 総務省 国勢調査 (2015年(平成27年)) ※就業者の比率は15歳以上人口に対する就業者数の比率 ※産業ごとの割合は「分類不能の産業」を除いた総数の割合 | | | | | | | | 群馬県、農林水産省 群馬県統計年鑑 (2018年(平成30年)) 農林業センサス(2015年) | | |

【参考】近隣・類似都市の産業別就業者数の割合



■ 第1次産業 □ 第2次産業 □ 第3次産業

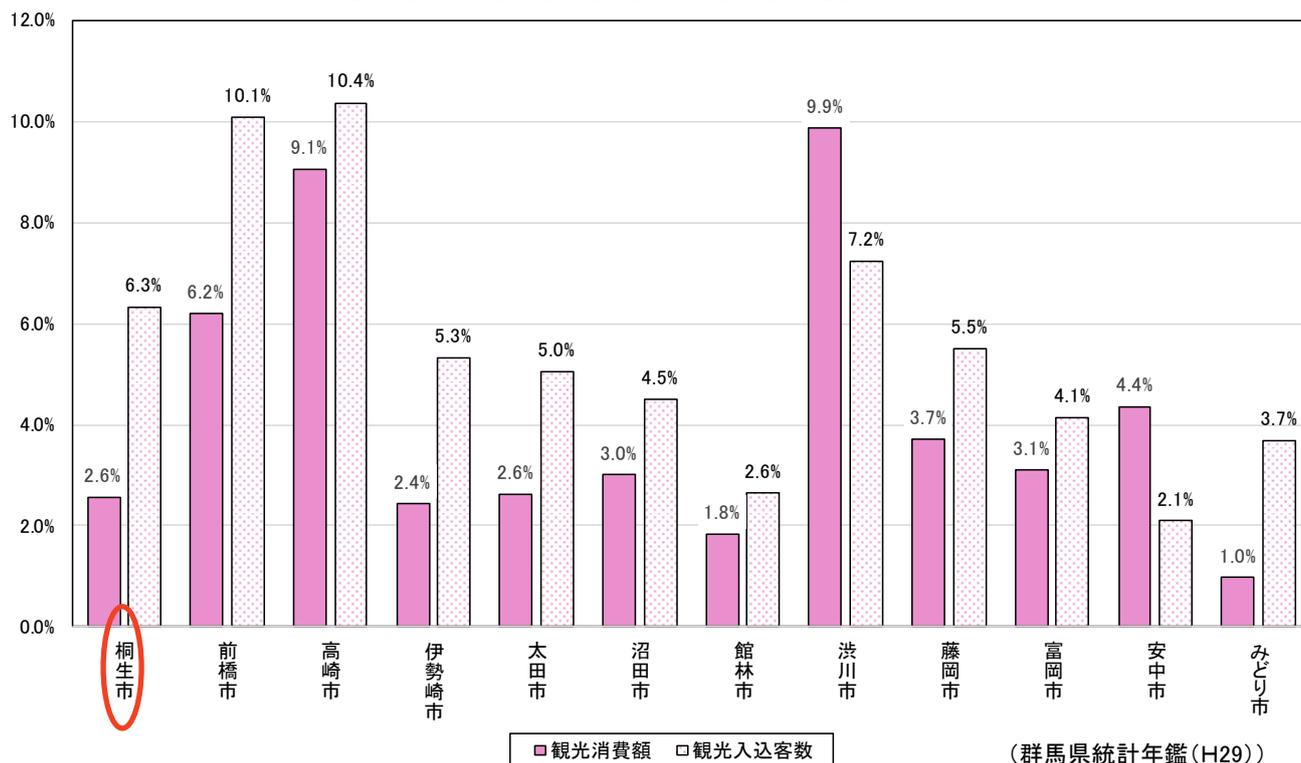
(国勢調査(H27))

○2017年の桐生市の観光入込客数は、県内12市の中で4番目に多い一方で、観光消費額については4番目に少ない。

○2016年の桐生市の住民1人当たり出荷額等、卸売業の住民1人当たり販売額は、16市の中でそれぞれ5番目に少ない。

| 区分 | 観光 | | | | 製造業 | | 卸売業 | |
|------|---|-------------|------------------|-------------|-------------------|-----------------|------------------|----------------|
| | 観光消費額 | | 観光入込客数 | | 製造品 出荷額等 | 住民1人当たり 出荷額等 | 年間商品 販売額 | 住民1人当たり 販売額 |
| 時点 | 2017(年間) | | 2017(年間) | | 2016(年間) | | 2014(年間) | |
| 単位 | 千円 | % | 人 | % | 万円 | 万円 | 万円 | 万円 |
| 群馬県 | 189,435,842 | 100.0% | 64,486,800 | 100.0% | 869,926,234 | 440.9 | 413,404,751 | 209.5 |
| 桐生市 | 4,849,234 | 2.6% | 4,078,400 | 6.3% | 23,936,258 | 208.7 | 4,793,812 | 41.8 |
| 前橋市 | 11,731,423 | 6.2% | 6,503,400 | 10.1% | 55,288,632 | 164.5 | 63,175,112 | 187.9 |
| 高崎市 | 17,160,167 | 9.1% | 6,688,800 | 10.4% | 77,109,470 | 207.9 | 224,871,914 | 606.3 |
| 伊勢崎市 | 4,603,354 | 2.4% | 3,441,700 | 5.3% | 113,280,427 | 542.5 | 25,589,104 | 122.5 |
| 太田市 | 4,985,800 | 2.6% | 3,253,200 | 5.0% | 284,215,022 | 1,293.0 | 45,324,660 | 206.2 |
| 沼田市 | 5,698,678 | 3.0% | 2,904,500 | 4.5% | 8,417,944 | 172.9 | 1,864,398 | 38.3 |
| 館林市 | 3,468,178 | 1.8% | 1,708,200 | 2.6% | 25,974,556 | 338.8 | 13,507,748 | 176.2 |
| 渋川市 | 18,688,679 | 9.9% | 4,667,500 | 7.2% | 17,254,492 | 220.1 | 7,884,245 | 100.6 |
| 藤岡市 | 7,047,151 | 3.7% | 3,552,800 | 5.5% | 25,482,762 | 387.8 | 2,373,348 | 36.1 |
| 富岡市 | 5,878,530 | 3.1% | 2,669,900 | 4.1% | 26,236,768 | 527.4 | 1,450,873 | 29.2 |
| 安中市 | 8,255,667 | 4.4% | 1,354,500 | 2.1% | 29,361,828 | 501.6 | 1,137,223 | 19.4 |
| みどり市 | 1,861,189 | 1.0% | 2,378,300 | 3.7% | 7,691,305 | 151.1 | 3,748,299 | 73.6 |
| 栃木県 | | | | | 894,677,528 | 453.2 | 259,437,800 | 131.4 |
| 足利市 | | | | | 37,055,643 | 247.9 | 11,256,100 | 75.3 |
| 佐野市 | | | | | 38,649,082 | 325.0 | 15,642,200 | 131.5 |
| 茨城県 | | | | | 1,120,875,791 | 384.3 | 346,248,600 | 118.7 |
| 古河市 | | | | | 71,499,673 | 507.3 | 8,527,500 | 60.5 |
| 埼玉県 | | | | | 1,268,280,117 | 174.5 | 828,050,900 | 114.0 |
| 加須市 | | | | | 40,725,679 | 362.9 | 10,461,500 | 93.2 |
| 資料 | 群馬県、経済産業省 群馬県群馬県観光客数・消費額調査(推計)結果(2017年(平成29年))、平成29(2017)年 工業統計表、平成26年商業統計表 ※観光消費額・観光入込客数における割合は、県の合計値における各市が占める割合 ※各「住民1人当たり」の値は「金額/平成27年国勢調査人口」で算出 | | | | | | | |

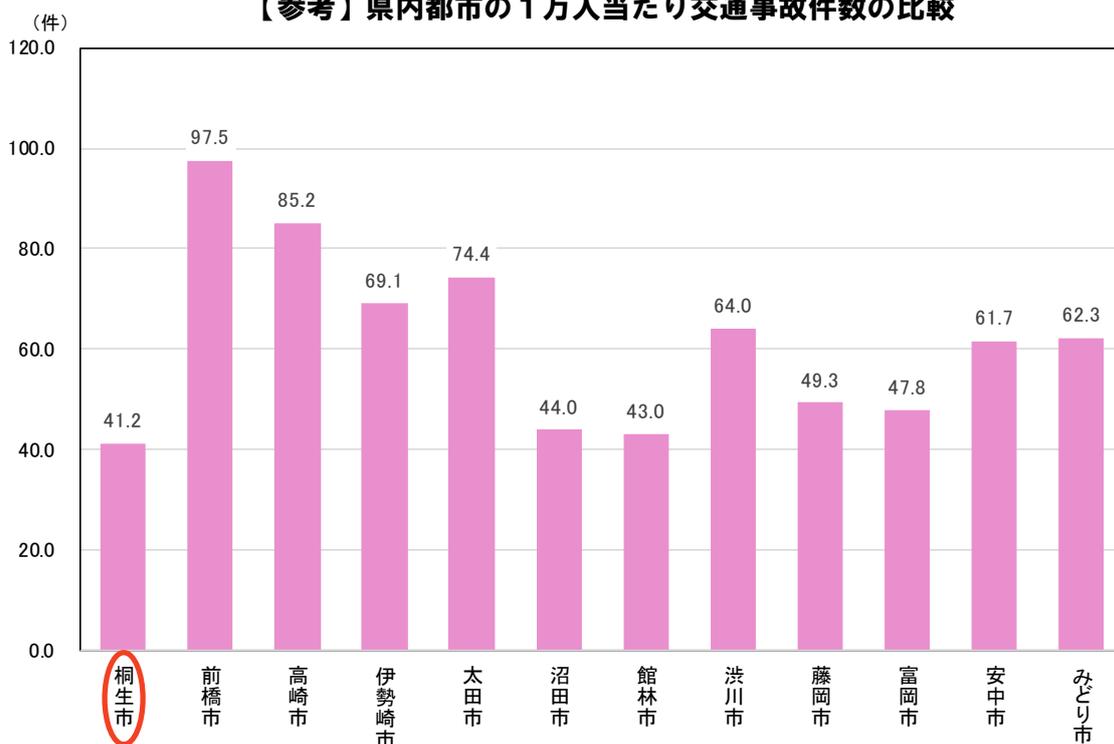
【参考】県内都市の観光消費額・観光入込客数の比較



- 2016年の桐生市の小売業の住民1人当たり販売額は、16市の中で3番目に少ない。
- 2016年の桐生市の1万人当たり出火件数は、県内12市の中で4番目に多い。
- 2016年の桐生市の1万人当たり交通事故件数は、県内12市の中で最も少ない。

| 区分 | 小売業 | | 防災 | | 交通 | |
|------|--|-------------|-----------|------------|------------|--------------|
| | 年間商品販売額 | 住民1人当たり販売額 | 出火件数 | 1万人当たり出火件数 | 交通事故件数 | 1万人当たり交通事故件数 |
| 時点 | 2014(年間) | | 2016(年間) | | 2016(年間) | |
| 単位 | 万円 | 万円 | 件 | 件 | 件 | 件 |
| 群馬県 | 202,150,109 | 102.5 | 755 | 3.8 | 13,574 | 68.8 |
| 桐生市 | 9,125,573 | 79.6 | 53 | 4.6 | 473 | 41.2 |
| 前橋市 | 37,340,713 | 111.1 | 91 | 2.7 | 3,279 | 97.5 |
| 高崎市 | 44,234,267 | 119.3 | 98 | 2.6 | 3,160 | 85.2 |
| 伊勢崎市 | 20,289,062 | 97.2 | 83 | 4.0 | 1,442 | 69.1 |
| 太田市 | 23,114,058 | 105.2 | 104 | 4.7 | 1,635 | 74.4 |
| 沼田市 | 5,609,121 | 115.2 | 17 | 3.5 | 214 | 44.0 |
| 館林市 | 10,077,672 | 131.4 | 37 | 4.8 | 330 | 43.0 |
| 渋川市 | 8,063,002 | 102.9 | 21 | 2.7 | 502 | 64.0 |
| 藤岡市 | 5,824,502 | 88.6 | 23 | 3.5 | 324 | 49.3 |
| 富岡市 | 4,855,403 | 97.6 | 22 | 4.4 | 238 | 47.8 |
| 安中市 | 4,208,205 | 71.9 | 34 | 5.8 | 361 | 61.7 |
| みどり市 | 5,569,968 | 109.4 | 12 | 2.4 | 317 | 62.3 |
| 栃木県 | 197,103,800 | 99.8 | | | | |
| 足利市 | 14,600,800 | 97.7 | | | | |
| 佐野市 | 13,118,900 | 110.3 | | | | |
| 茨城県 | 278,630,200 | 95.5 | | | | |
| 古河市 | 12,539,400 | 89.0 | | | | |
| 埼玉県 | 605,297,300 | 83.3 | | | | |
| 加須市 | 7,448,800 | 66.4 | | | | |
| 資料 | 群馬県、経済産業省 | | | | | |
| | 群馬県統計年鑑(2018年(平成30年))、平成26年商業統計表 ※各「住民1人当たり…」の値は「金額/平成27年国勢調査人口」、各「1万人当たり…」の値は「件数/平成27年国勢調査人口×1万人」で算出 | | | | | |

【参考】県内都市の1万人当たり交通事故件数の比較



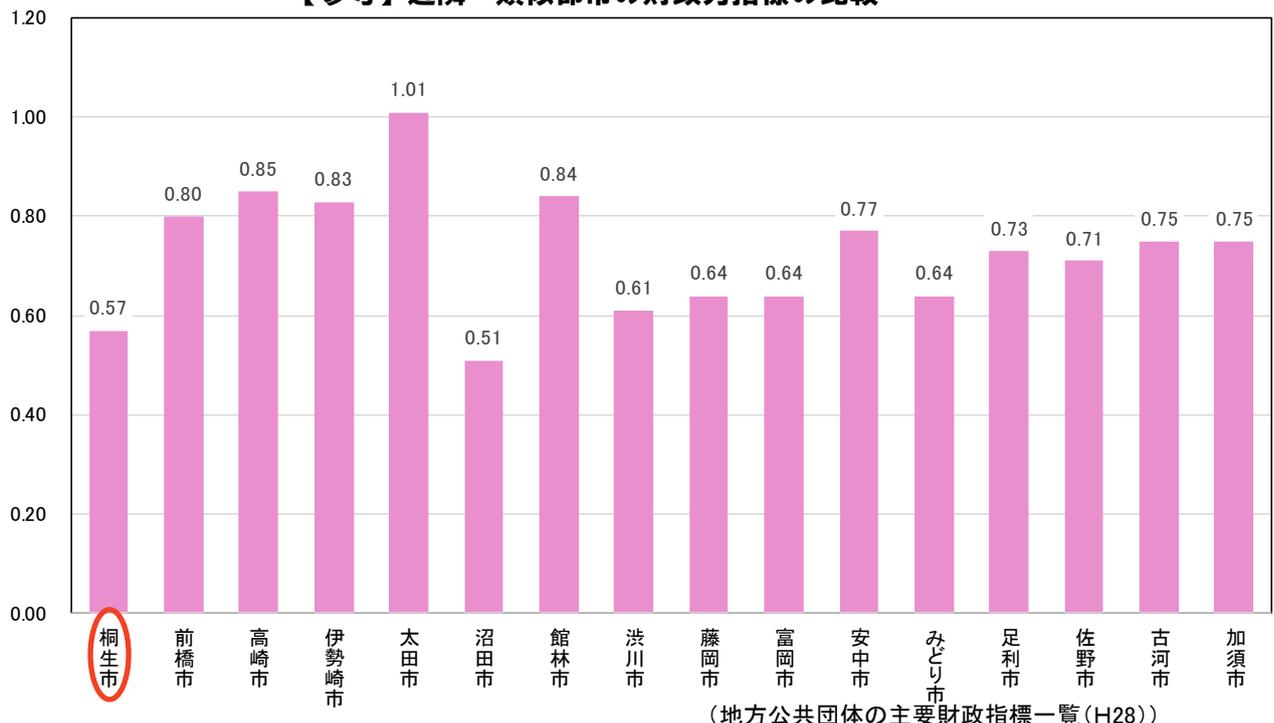
(群馬県統計年鑑(H29))

(4) 医療、財政関連

- 2016年の桐生市の1万人当たり病院数は、16市の中で8番目に少ない。
- 2016年の桐生市の1万人当たり医師数は、16市の中で7番目に少ない。
- 2016年度の桐生市の歳入・歳出比率は、16市の中で8番目に低い。
- 2016年度の桐生市の財政力指数は、16市の中で沼田市に次いで2番目に低い。

| 区分 | 医療 | | | | 財政 | | | |
|------|---|-----------|---|-----------|-----------------------------------|---------------|----------|-----------------------------------|
| | 病院数 | 1万人当たり病院数 | 医師数 | 1万人当たり医師数 | 歳入総額 | 歳出総額 | 歳入・歳出比率 | 財政力指数 |
| 時点 | 2016.10.1 | | 2016.12.31 | | 2016(年度) | 2016(年度) | 2016(年度) | 2016(年度) |
| 単位 | 施設 | 施設 | 人 | 人 | 千円 | 千円 | % | - |
| 群馬県 | 129 | 0.65 | 4,620 | 23.4 | 736,096,433 | 725,831,981 | 98.6% | 0.62 |
| 桐生市 | 8 | 0.70 | 222 | 19.4 | 47,437,494 | 45,434,683 | 95.8% | 0.57 |
| 前橋市 | 20 | 0.59 | 1,581 | 47.0 | 143,202,992 | 140,942,127 | 98.4% | 0.80 |
| 高崎市 | 27 | 0.73 | 815 | 22.0 | 166,858,011 | 161,830,632 | 97.0% | 0.85 |
| 伊勢崎市 | 10 | 0.48 | 418 | 20.0 | 76,403,517 | 74,097,369 | 97.0% | 0.83 |
| 太田市 | 11 | 0.50 | 391 | 17.8 | 86,110,933 | 82,109,930 | 95.4% | 1.01 |
| 沼田市 | 4 | 0.82 | 127 | 26.1 | 22,991,654 | 22,199,785 | 96.6% | 0.51 |
| 館林市 | 6 | 0.78 | 144 | 18.8 | 28,553,235 | 26,687,504 | 93.5% | 0.84 |
| 渋川市 | 9 | 1.15 | 201 | 25.6 | 34,320,672 | 32,458,427 | 94.6% | 0.61 |
| 藤岡市 | 5 | 0.76 | 163 | 24.8 | 27,266,645 | 26,609,559 | 97.6% | 0.64 |
| 富岡市 | 3 | 0.60 | 145 | 29.1 | 23,719,895 | 21,929,315 | 92.5% | 0.64 |
| 安中市 | 5 | 0.85 | 72 | 12.3 | 23,898,025 | 22,941,404 | 96.0% | 0.77 |
| みどり市 | 4 | 0.79 | 101 | 19.8 | 19,860,240 | 18,417,578 | 92.7% | 0.64 |
| 栃木県 | 107 | 0.54 | 4,498 | 22.8 | 763,338,596 | 753,100,900 | 98.7% | 0.64 |
| 足利市 | 12 | 0.80 | 298 | 19.9 | 52,981,899 | 51,463,978 | 97.1% | 0.73 |
| 佐野市 | 5 | 0.42 | 190 | 16.0 | 48,201,750 | 45,469,732 | 94.3% | 0.71 |
| 茨城県 | 178 | 0.61 | 5,513 | 18.9 | 1,087,054,495 | 1,062,035,462 | 97.7% | 0.64 |
| 古河市 | 8 | 0.57 | 204 | 14.5 | 50,869,098 | 49,181,689 | 96.7% | 0.75 |
| 埼玉県 | 342 | 0.47 | 12,172 | 16.8 | 1,722,075,796 | 1,712,177,456 | 99.4% | 0.77 |
| 加須市 | 5 | 0.45 | 83 | 7.4 | 44,609,600 | 41,540,793 | 93.1% | 0.75 |
| 資料 | 群馬県、厚生労働省 | | | | 総務省 | | | |
| | 群馬県統計年鑑 (2018年(平成30年)) ※「1万人当たり…」の値は「施設/平成27年国勢調査人口×1万人」で算出 | | 平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 平成28年医療施設(動態)調査 ※「1万人当たり…」の値は「人数/平成27年国勢調査人口×1万人」で算出 | | 都道府県・市町村決算カード (2016年度(平成28年度)) | | | 地方公共団体の主要財政指標一覧 (2016年(平成28年)) |

【参考】近隣・類似都市の財政力指標の比較



(地方公共団体の主要財政指標一覧(H28))

※財政力指数は、地方公共団体の財政力を示す指標として用いられる指数であり、1.0を上回れば、その地方自治体内での税収入等のみを財源として円滑に行政を遂行できるとして、地方交付税交付金が支給されない不交付団体となる